

10.21ハ! 取場討論のために①

侵略と反動の力ナメ 三里塚軍事空港

農民を殺し、生活を破壊し尽す反動の空港

「二期ができたなら、ここにはもう住めねえ!」
先日編集委員が取材のためにたずねた空港近くに住む組合員Aさんの家族は今真剣に考えている。滑走路一本の今でさえ、夜中の一時までジェット機の爆音の下で暮さなければならぬのか。Aさんとこんなめにあわなければならぬのか。Aさんと同じ悩み怒りをもつ周辺住民はとて多い。9・16集会へはかかってない多数の周辺住民が手に手にブラッカードをもって参加、廃港を訴えた。出口のない日本資本主義の経済的ゆきづまりはなによりも航空機産業・航空路確保をめぐっての激しい競争に突入している。

この競争に勝ちぬくために、として政府は先ごろ「空港整備六カ年計画」を発表した。「計画」は①日本中のローカル空港も含め大多数をジェット空港化(大巾拡張)する。②その中心環は成田の二期工事の完成であり、③関西新空港着工に手をつけよう、というのである。

今でさえ空港公害で苦しめられている人間を更に追いうちし、けちらし、土地をうばって一部支配者の私腹を肥やすことをどうして許せようか。「三里塚は全国住民運動の天王山」とよく言われるが、かけ値なく、そういう状況に入った。

軍事空港そのもの!
「有事体制づくり」を狙う支配者

凶暴なやり方で空港建設を強行せんとする支配者の腹のうちは、実は最優先の軍事的目的が働いているからである。

この一年、公然と推しすすめられてきた「有事即応体制づくり」の「有事立法化」攻撃は、一瞬のうちには全てを自衛隊の掌握下におき戦争に動員して行く体制づくりであるが、その最も中心になっ

ているのが「空港」なのである。
自衛隊幹部・元陸海空三幕僚長らのあけすけの願望を『自衛隊闘わば』の報告書に見てみるならば「要は米軍基地はもちろん、航空自衛隊の基地であろうと、使えるものは全部使えるようにしておかなければならない」「そういう意味では民間空港も緊急時には使えるようにすることですね。要するに戦時立法の必要がありますね」。
そして、大々的な汚職まで起しつつ急激に増強された「五次防」も主眼は自衛隊の空・海制圧力の飛躍的増強に絞られている。

ところが支配者が今一番ゆきづまっているのは何か? 土地の狭さを反映し全国どこの地域でも「基地・空港拡張」「原子力発電所設置」の二つは例外なく激しい反対運動にさらされているという事実である。(そのほとんどが三里塚反対同盟と固く連帯して根づく闘っている)。

支配者は、戦争推行体制を築くためには、住民運動の軸柱たる三里塚反対同盟を叩きつぶし、二期工事を完成させ、全国全ての闘う人々をあきらめさせぬじふせてしまふ以外に、その野望が達成できないとみている。

農民を殺し、住民を苦しめ、環境を破壊し尽して強行される空港三里塚空港はまごうことなき反人民的軍事空港である。10・21の高揚を切りひらき廃港に追いこもう。

10.21反戦闘争の歴史と国鉄労働者

(一) はじめに

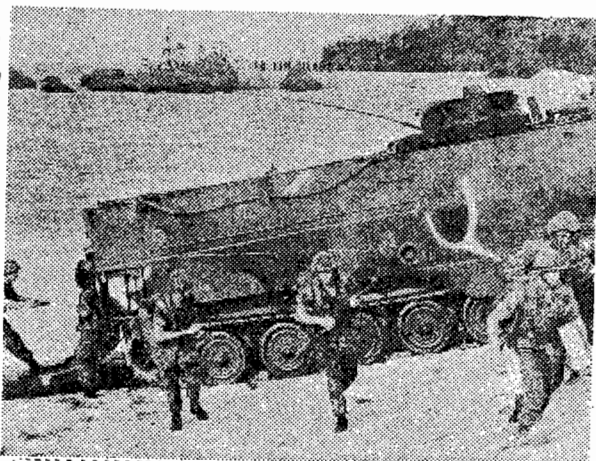
10・21はあと三週間に迫った。例年にもまして本年の10・21国際反戦デーをめぐる情勢は重大化してきている。その中心軸は、①日本の軍事大国化・核武装化への急激な動きであり、②くり返される日米韓軍事大演習等に見られる自衛隊の実戦部隊化・臨戦体制づくり、③「ソ連が攻めてくる」と煽りつつ、天皇・軍部を軸にした「有事体制づくり」の反動・翼賛体制づくり、を強行している怒るべき現実である。

三里塚・芝山連合空港反対同盟は、この攻撃の最頂点ともいえる「二期強行・反対闘争解体・三里塚軍事空港完成」をかけた敵の攻撃を真正面からうちくたくく、今年の10・

高まる軍靴の響き・・・
転換II再建を迫られる「10・21」

八〇年代日本労働運動の戦闘的再生をかけた、あえて荆の道をふんで決起したわが勤労千葉には、今こそ、10・21の闘う伝統を引き継ぎ再建していく歴史的任務が課せられている。

この時にあたり、われわれは、「10・21国際反戦デー」をめぐる闘いの歴史」をふりかえ



「フォートレス・ゲール」大演習で水陸両用装甲車から上陸する米海兵隊員(26日、沖縄ブルービーチで)

り、「その中軸を担ってきた国鉄労働者の闘いの教訓」を、以降何回かにわたって整理してみたい。
▲次回は「ベトナム侵略戦争の激化と67・10・21反戦闘争の提起」を予定

労農連帯を一層強め、三里塚・ジェット闘争を貫徹しよう!

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ!